

モンゴルで落語

笑福亭仁智

しょうふくていじんち / 1952年大阪府生まれ。落語家。1971年笑福亭仁鶴に入門。特に自作の創作落語は評価が高い。「上方落語喜講」を主宰し、チャリティー寄席での収益金を寄付。2001年より「お寺数珠つなぎ落語会」を全国で公演。1998年度大阪文化祭賞奨励賞、2003年度文化庁芸術祭優秀賞受賞。(社)上方落語協会理事。同企画委員長。

「到着地ウランバートルの気温は、摂氏マイナス二十四度でございます」そう言ったに違いない。英語で、客室乗務員が何やらアナウンスしているなかで、マイナス二四だけ聞き取れた。それでも今年は暖冬というチンギスハーン国際空港に降りた。

二〇〇七年は、日本とモンゴルの国交樹立三五周年で「モンゴルにおける日本年」として、さまざまな日本文化が紹介される。その記念事業として「日本伝統芸能・落語会」が、在モンゴル日本国大使館と会場となる国立ドラマ・アカデミック劇場の主催で開催されることになり、わたしが落語をすることになったのだ。

「モンゴルで落語をしませんか」と声をかけていただいた大使館員、近藤和正氏の出迎えて市内へ。モンゴルは、昨年建国八〇年でやたらチンギスハーンが目につく。空港名、ホテル紙幣はもちろん、スフバートル広場の政府宮殿には、奈良の大仏ほどもあるチンギスハーンの像が広場を見据えている。郊外には巨大な騎馬像を建設中で、まさにチンギスハーン一色である。

ウランバートルは意外にも一〇〇万都市。ビルが立ち、周辺には地方から来た人びとがゲルで暮らしている。街行く人は、みな体格がよく、寡黙で色浅黒く無骨に見える。落語を見て笑うのか。不安がよぎる。車中今回のイベントのフルカラーの立派なチラシを見せてもらう。また、あれが会場ですと指差された宮殿風の建物の横には、たたみ四枚分もある看板にでかでかと

わたしの舞台写真が踊っていた。いつのまにか、事が大層になつていないか？わたしの心臓も少し踊り出した。さらに、公演当日には市橋康吉駐モンゴル日本国大使、モンゴル文部科学副大臣が来場されると聞き、ますます道行く人が寡黙に見えた。

モンゴルでは大相撲が大人気だと聞き、「大安売」という弱い相撲取りと町人の漸をやることに決めた。まず落語というものをわかつてもらうために通訳を交えながら話を進め、落語は字幕スパーで見てもらうことにした。しかし客席には、町で見かけたような人たちが静かに座っている。

笑芸は、まずお客さんと打ち解け心が通うことが第一歩である。「はじめまして。日本から来た笑福亭仁智と申します。サエンバイツガーノ（みなさんこんにちは）」拍手をいただくと、バイラルラー（ありがとうございます）一瞬にして空気が和んだ。あとは小話、落語、玉すだれ、ことはば違えど笑いどころは同じである。そしてお囃子紹介でモンゴルの童謡を出囃子にして演奏すると、会場は手拍子に包まれ、最後はなんとスタンディングオベーションを初体験した。

終演後のレセプションに参加した一様に体格のいいモンゴルの人たちは、みな相好を崩し、人懐っこく、しかも紳士で、握手したその手はでかくて力強かった。そして「面白かった」と言ってくれた。次の日モンゴルの空は、どこまでも青く澄んでいた。



目次

JUNE 2007 月刊みんぱく 6

01 エッセイ 世界へ世界から
モンゴルで落語
笑福亭仁智

02 特集
ペット

人とペットの共生社会
吉田 眞澄
古代人が飼ったペット
松井 章
ペットの最期を看取る
—日本と韓国のペット葬儀
フェルトカンパ・エルメル

極北のペット

岸上 伸啓
アマゾンの桃太郎
中牧 弘允
ウンがつく街—パリ
三島 禎子

08 モノ・グラフ
日本コロムビア外地録音
福岡 正太

10 地球ミュージアム紀行
アバルトヘイトの記憶
飯田 卓

11 表紙モノ語り
ケツアル鳥
八杉 佳穂

12 みんぱくインフォメーション

14 万国津々浦々
クールアンのグッズ
小杉 麻李亜

15 人生は決まり文句で
食物には食べる人の名前が書いてある
金谷 美和

16 外国人として生きる
84歳、今が青春
オ・ボクトク タヒヤンサリ
—呉福徳さんの異郷暮らし66年
金 美善

18 地球を集める
民博アラビアンナイト・コレクション
西尾 哲夫

20 生きもの博物誌
ビクーニャの保護と村おこし
大山 修一

22 フィールドで考える
音楽は国境を越えて
錦田 愛子

24 開館30周年記念事業の案内
次号予告・編集後記